



メカトロ設計の面白さを知る

市販のマイコンの使い方、インタフェース回路やPLCのラダー回路の設計方法について、実践的な具体例を示しながら丁寧に説明したメカトロニクス設計の入門書。鉄道やロボットなどの実例を挙げて制御システムとは何かを説き起こすなど、初心者でもその基礎から実践までを楽しく学べる。

特に、390個も掲載されているチャートや回路図などの図表が初心者の理解を促すのに大いに役立つ

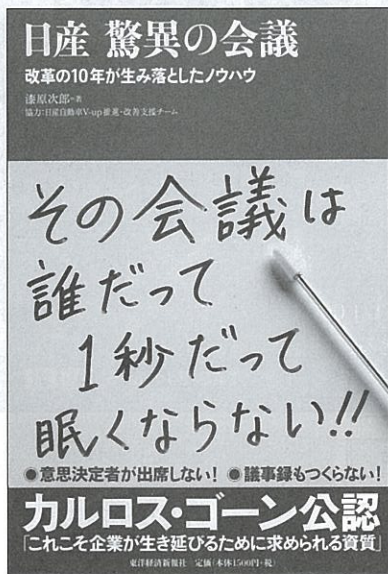
ている。随所に設けた「Column」欄で専門用語を詳解している点も初心者には嬉しい。モータや空気圧機器、機械要素、電気部品、センサといったメカトロニクスに必須の要素について解説している第2部は、手引きとして後々まで役立ちそうだ。

筆者らは、ロボット工学の研究者。基礎解説に留まらない実践的な内容からは、これを手にした若手設計者に次代を担ってほしいという筆者らの期待が感じられる。



はじめてのメカトロニクス実践設計

著者●米田完、中嶋秀朗、並木明夫
定価●2800円+税
発行●講談社
ISBN978-4-06-155794-9



日産 驚異の会議

著者●漆原次郎
定価●1500円+税
発行●東洋経済新報社
ISBN978-4-492-50231-0

会議をシステムチックに

経営危機に陥った日産自動車が「V」字回復を実現した背景に、部門横断で組織の壁を破る「クロスファンクショナルチーム (CFT)」の存在があったことはよく知られている。だが、実はもう1つの手法があった。それが本書で紹介する会議の方法だ。

同社は、「V-up」と名付けた課題解決手法をベースに、課題解決と意志決定を会議によって効率的に行う。本書を読み解くと、ポイントは、
①決められた時間内で結論を出す、

②何を議論しているのか、誰が担当するのかを明確にする、③各課題解決策について評価 (実現性や難易度)・採否する、④それらをしっかりと「見える化」すべく、システムチックに進めていく、となる。

「結論の出ない会議なら、やるだけムダ」と感じる技術者は多いはず。しかし、現実はだらだらと長引く会議ばかり…。この改善を望む読者には参考になるだろう。文章も平易で短時間で読める。